



CEReS

Newsletter No.23

Center for Environmental Remote Sensing,
Chiba University, Japan

千葉大学環境リモートセンシング
研究センターニュース 2007年10月
発行：環境リモートセンシング研究センター
住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
Tel: 043-290-3832 Fax: 043-290-3857
URL: <http://www.cr.chiba-u.jp/> (編集: 高村)

第13回 CEReS 国際シンポジウム開催される

The 13th CEReS International Symposium on Remote Sensing : Disaster Monitoring and Mitigation in Asia

平成19年10月29日～30日に千葉大学けやき会館にて第13回CEReS国際シンポジウムが開催されました。今年度のシンポジウムのテーマは、「アジア地域における災害モニタリングとミティゲーション」。このシンポジウムに、国内外の研究者と学生併せて、のべ91名(外国人20名、国内参加者71名)が参加しました。

シンポジウムでは、4つのオラルセッションと2つのポスターセッションがあり、合計36編の論文が発表されました。その内、日本をはじめ、台湾、マレーシア、インドネシアなどの災害モニタリングとミティゲーションの研究者計6人が招待講演です。マレーシアのマルチメディア大学のチュン教授がマレーシア政府のリモートセンシング分野の政策、次期センサ(合成開

ロレーダ)と新型人工衛星(Razak衛星等)の興味深い研究内容を紹介しました。また、台湾(国立中央大学)の研究者ファン教授は、台湾における河川・湖地域の時系列モニタリングに関する研究テーマを紹介し

ました。さらに、インドネシアからのケトット準教授(バンドン工科大学)とエレオノラ博士はそれぞれリモートセンシングとGISによるインドネシアの都市地域と農地のモニタリング方法を紹介しました。最後に、



写真1 第13回CEReS国際シンポジウム出席者
記念撮影

千葉大学山崎教授と服部教授がそれぞれ高解像度の衛星画像による地震被害地域の把握と地すべりに関する研究をわかりやすく発表していただきました。

このシンポジウムによって、リモートセンシング技術によるアジア地域密着型アウトリーチのモニタリングとミティゲーションの研究と人材育成の活動が実現できると期待します(J. T. スリスマンティヨ)

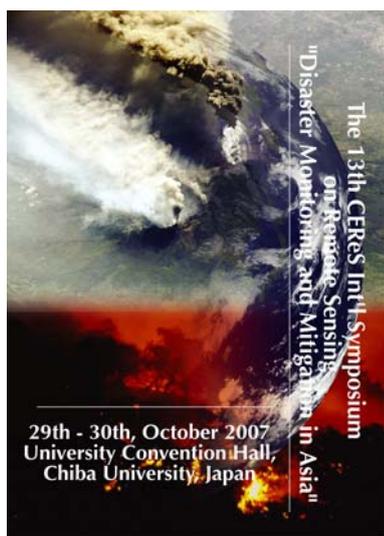


写真2 ポスターセッションで熱心に討論する
シンポジウム参加の皆さん

海外便りーインドネシアと中国 ー 留学生の繋ぐ環 ー

9月28日から10月2日までインドネシアのボゴールに出張しました。これはJSPS 二国間交流事業ー共同研究として筑波大学から申請して採択されたプロジェクトですが、その発端は留学生です。千葉大学、筑波大学、京都大学の水文グループの博士課程修了者がボゴールにある農科大学および農業気象・水文研究所(IAHR)に勤め、水文研究を推進していることが申請に繋がりました。IAHRのエレオノラ博士はCEReSで博士を取得しました。このプロジェクトではジャカルタ市内を流れるチリウン川を研究対象とすることにしましたが、今回の訪問では上流から下流まで視察し、洪水や汚染等、流域管理に関する様々な問題を見てきました。インドネシアのメンバーは10月28日に来日し、CEReS 国際シンポジウムにも参加して頂いた後、31日には筑波大学で国際ワークショップを開催し、今後の研究課題について議論することができました。



写真3 ジャカルタ市街地を流れるチリウン川
ー洪水時には水があふれる。

10月8日から13日は中国の北京、河北省に出張しました。これは文部科学省「国際協力イニシアティブ」教育協力形成事業として採択された課題で、いわゆる“知のODA”として文部科学省が目指している国際事業です。筑波大学から申請して採択されたプロジェクトですが、これも発端は留学生でした。中国のカウンターパートは中国科学院の地理科学与資源研究所(北

京)と遺伝与発育生物学研究所農業資源研究センター(石家庄の旧農業現代化研究所)です。地理研の劉昌明院士は1996年にCEReSに客員教授として半年間滞在し、翌年から始まる中国の水問題研究の実施にご尽力いただいた先生です。空港で迎えてくれた地理研の宋献方教授は筑波大学出身、農業資源研究センターの楊永輝教授は千葉大学で論文博士をとりました。石家庄ではCEReSで博士号をとった沈彦俊博士が出迎えてくれました(奥さんもCEReSで博士号を取得し、現在は河北科学技術大学)。



写真4 河北省内で工事が進む南水北調の水路
ーここから約300km先が北京。

今回の業務は中国の二つの研究所の大学院生を対象としたOJT(実地職業訓練)です。最初に北京で講義を行った後、華北平原の水問題地域や研究の現場を訪れました。南水北調の中線(北緯32度の漢江の水を北緯40度の北京・天津に運ぶ国家事業)は工事也大分進んでおり、巨大な水路を目の当たりにしました。水域の狭くなった白洋淀(華北平原唯一の淡水湖)、山地流域の実験施設、地下水汚染の現場、等を巡りながら学生と研究の手法、意義等について議論をしながら一週間のバスの旅を終えました。

CEReSは研究を主とする機関ですが、教員は大学院を兼任し、発足以来多くの博士課程修了者、学位授与者を輩出してきました。彼ら、彼女らの一部は母国に帰り研究者として活躍しながらCEReSの海外研究・教育活動の一端を担っています。今後も定期的にCEReSと留学生が繋いだ海外研究を掲載していきたいと思えます。(近藤昭彦)

50インチ液晶モニターによる CEReS活動状況の配信

1階ロビーに大型液晶パネルを設置しました。これは表示パネル、コンテンツ作成・配信用サーバー（ヨサファット研究室に設置）及びクライアントサーバーをネットワークで結んで構成されています。コンテンツ配信とコンテンツ作成プログラムはシャープが開発した「e-Signage」によるもので、静止画、ビデオ映像、FlashアニメーションやPower Pointデータなどの表示ができます。またタイムテーブル編集で作成した日単位の番組プログラムを、月間スケジュールとして編集することもできます。

もちろんネットワーク接続により、他の講義室や会議室へのモニターにも配信が可能です。



写真5 研究棟1Fロビーに新設された大型液晶ディスプレイパネル

10月29日から本格的に運用しています。表示したいコンテンツがありましたら、広報委員会にお寄せください。原則としてppt fileで受付ます。なお、緊急または重要な事務的連絡も、テロップで流します。
(石山広報委員長)

2007年度 CEReS の外部資金獲得状況

2007(H19)年度の CEReS 教員を代表とする外部資金獲得状況がまとまりました(表1)。

前年度に比べて1千万円以上の減少となり、これは受託研究費の落ち込みが大きく効いています。一方、科学研究費は増加しており、継続を含めてのべ9件の採用で活発な研究活動が認められたものと思います。

表1 2007(H19)年度 CEReS 外部資金獲得状況 (単位千円)

	2004	2005	2006	2007/件
奨学寄付金	8,043	9,500	2,500	2,500/2
受託研究費	39,793	23,873	46,114	34,037/4
委託費	0	8,375	13,928	7,770/1
民間等との共同研究費	57,760	6,500	12,100	11,200/5
科研費	18,700	16,100	21,900	28,390/9
合計	124,296	64,348	96,542	83,897/21

表2に2007年度獲得した科研費の課題一覧を示しました。表からも、CEReSで多様な研究が推進されていることがわかります。(予算委員会;高村)

表2 2007年度取得科研費一覧

研究種目	代表者	研究課題
基盤研究(B)	近藤昭彦 H18 - H20	比較水文学的手法による地域水文研究の総合化に関する研究
同上	高村民雄 H18 - H20	高精度全球放射収支推定のための雲のマイクロ・マクロ物理量の衛星・地上同時観測研究
基盤研究(C) 一般	久世宏明 H17 - H19	広角観測用イメージングライダーを利用した大気の実時間広域二次元観測
萌芽研究	西尾文彦 H18 - H19	夜の定常光から求める人間活動起源の二酸化炭素排出量のモニタリング手法に関する研究
若手研究A	J T Sri Sumantyo H19 - H21	高精度軸比画像生成用円偏波合成開口レーダの開発
特別研究員奨励費	J T Sri Sumantyo H18 - H19	次世代合成開口レーダによる海岸線における災害域のモニタリング
特別研究促進費	原田一平 H19 - H20	衛星計測データによる火山噴出物表層部の実態把握
特別研究員奨励費	J T Sri Sumantyo H19 - H20	ALOS-PALSAR 衛星データによる熱帯森林のバイオマスの推定とマッピング
特別研究員奨励費	高村民雄 H19 - H21	SKYNET 観測データによる地球放射収支に与えるエアロゾルと雲の影響評価研究